

令和5年1月分 清水税関支署管内 貿易概況（速報）の要旨

1. 清水港

輸出総額は1,509億円（対前年同月比9.8%の増加、比率ベース：8カ月連続の増加）、輸入総額は1,315億円（同34.8%の増加、24カ月連続の増加）であった。差引額は194億円（同51.3%の減少）の輸出超過で、2カ月ぶりの減少となった。

品目別では、輸出は「自動車」、「自動車の部分品」などは減少したものの、「原動機」、「加熱用・冷却用機器」、「二輪自動車類」などが増加した。

輸入は「プラスチック」、「医薬品」などは減少したものの、「がん具及び遊戯用具」、「魚介類及び同調製品」、「その他の採油用種子」などが増加した。

地域別では、輸出は「アメリカ」、「EU」が増加、「アジア」は減少した。輸入は「アジア」、「アメリカ」、「EU」が増加した。

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額（▲は輸入超過）	伸率
清水港	1,509億円	+9.8%	1,315億円	+34.8%	194億円	▲51.3%
	8カ月連続の増加		24カ月連続の増加			

概況品名			金額	伸率	概況品名			金額	伸率
輸出	増加品目	(1) 原動機	250億円	+28.1%	輸入	増加品目	(1) がん具及び遊戯用具	176億円	5.4倍
		(2) 加熱用・冷却用機器	67億円	2.2倍			(2) 魚介類及び同調製品	153億円	+41.2%
		(3) 二輪自動車類	152億円	+15.9%			(3) その他の採油用種子	23億円	15倍
	減少品目	(1) 自動車	5億円	▲74.7%		減少品目	(1) プラスチック	32億円	▲13.5%
		(2) 自動車の部分品	125億円	▲5.7%			(2) 医薬品	6億円	▲42.4%
		(3) 医薬品	1億円	▲83.3%			(3) 合板・ウッドパネル	3億円	▲57.5%
	主要地域 増減	アメリカ、EUが増加、アジアは減少				主要地域 増減	アジア、アメリカ、EUが増加		

（参考）ドルレートは、132.08円（前年同月比15.0%、17.26円の円安）であった。

（注）月間ドルレートは、税関長が公示する相場を当該相場が適用された日数で加重平均したもの。

注）本資料中の「伸率」及び「増減表記」は、前年同期との比較による。

2. 田子の浦港

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額(▲は輸入超過)	伸率
田子の浦港	5億円	▲30.6%	22億円	▲7.5%	▲17億円	+3.8%
	2カ月連続の減少		3カ月ぶりの減少			

概況品名			金額	伸率	概況品名			金額	伸率		
輸出	増加品目	(1) 金属鉱及びくず	103百万円	全増	輸入	増加品目	(1) 有機化合物	415百万円	+49.2%		
		(2) 精油・香料及び化粧品類	156百万円	+64.5%			(2) 魚介類及び同調製品	100百万円	+77.5%		
		(3) 有機化合物	1百万円	全増			(3) バッグ類	26百万円	全増		
	減少品目	(1) 電気計測機器	—	全減		減少品目	(1) 石炭	—	全減		
		(2) 自動車用等の電気機器	—	全減			(2) パルプ	199百万円	▲56.4%		
		(3) ポンプ及び遠心分離機	2百万円	▲92.6%			(3) 無機化合物	71百万円	▲41.8%		
	主要地域 増減	アジア、EU、アメリカが減少					主要地域 増減	アメリカ、EUが減少、アジアは増加			

3. 御前崎港

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額(▲は輸入超過)	伸率
御前崎港	277億円	+40.5%	28億円	▲34.0%	249億円	+60.6%
	4カ月連続の増加		7カ月ぶりの減少			

概況品名			金額	伸率	概況品名			金額	伸率		
輸出	増加品目	(1) 自動車	160億円	2.4倍	輸入	増加品目	(1) プラスチック	795百万円	2.3倍		
		(2) 二輪自動車類	15億円	+41.2%			(2) 有機化合物	435百万円	3.6倍		
		(3) 無機化合物	11億円	+36.1%			(3) 粗鉱物	74百万円	全増		
	減少品目	(1) 自動車の部分品	21億円	▲33.8%		減少品目	(1) 原動機	—	全減		
		(2) 運動用具	0.7億円	▲74.9%			(2) 鉄鋼	148百万円	▲83.9%		
		(3) 電気回路等の機器	0.6億円	▲60.7%			(3) 調製石油添加剤	—	全減		
	主要地域 増減	EU、アジアが増加、アメリカは減少					主要地域 増減	アジア、アメリカが減少、EUは増加			

4. 静岡空港

輸出入実績なし